

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム かっこう

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392800017		
法人名	住田町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム かっこう		
所在地	〒029-2502 気仙郡住田町下有住字十文字89-2		
自己評価作成日	令和6年10月30日	評価結果市町村受理日	令和7年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活に笑顔があるように、住み慣れた地域で地域の情報を得ながら、一人ひとりの存在を大切に出来る力を生かせるように努めていきたいと考えています。また、普段からご家族や地域の方々との関係を状況に応じながら繋げていけるように対応していきたいです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の町社会福祉協議会では、隣接するデイサービスを移設し、7月からリハビリ型デイサービスとして衣替えした形で取り組んでいる。そのためこれまでのような協力体制は期待できないものの、緊急の際には、町社協や訪問看護「すみちゃん」との医療連携協力をいただける手筈を取っており、事業所として心強く思っている。職員は運営方針の「ゆっくり、穏やかに、和気あいあい」をもとに「家」と同じような雰囲気作りに努めながら支援に励んでいる。開設14年を経過し、事業所は地域の方々からもしっかりと認知されており、行事へのお誘いや利用者への温かな声かけなど、地域と密着してその役割を担っている。職員は現状に甘んずることなく常に利用者のために悩み、考え、工夫して支援に取り組んでおり、家族からも利用者を支援する職員の対応の良さに、安心と信頼をもって受け止められている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年11月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初からの理念を掲げ、時折声に出して読上げながら実践につなげている。職員会議で実践に向けてのそれぞれの思いを上げている。	開設当初の基本理念の見直しを職員間で協議したが、現行通りとし加えて「ゆっくり・穏やかに・和気あいあい」とする運営方針を定めた。それを事務室や玄関に掲示し、職員はとりわけ運営方針を念頭に実践に取り組んでいる。	基本理念は事業所がめざす根本となる考え方です。そのため、管理者を含む全職員がしっかりと共有し日々の実践に繋げていく必要があります。職員の一人一人が利用者に対してどの様に実践していくのか、職員全体で確認しあい共有することが望まれます。理念に基づいた具体的な実践を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	顔見知りのご近所さんと話しをしたり、お庭いっぱいバラを見学させていただいたりと交流がある。他にお野菜の差し入れもあり助けられている。地域の高校より文化祭へのお誘いもあり見学に出かけている。	町内会に加入していないが、地域の方や隣接するリハビリ施設に来た方に声を掛けられたり、野菜の差し入れをいただいている。近所の庭に咲いているバラを見学に行ったり、町内の行事などへも誘いをいただき、参加している。また高校から文化祭のお招きがあり、出掛けて学生と交流を持つなど、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	簡単な手作業で、不穏状態が落ち着いている方もおられるので、その利用方法を地域の方に紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況や行事活動等報告している。	運営推進会議は地区公民館を会場に、2か月ごとに開催している。委員は、事業所に関わりある3地域の民生委員や社協、老人クラブ、町の担当係長、地域包括支援センターで、利用者家族にも出席を案内している。防災訓練を運営推進会議に合わせて実施する等、事業所の状況を理解していただけるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員でもあり、情報提供や助言を頂いている。	運営主体の社会福祉協議会を通して情報を得ることが多いが、介護保険関係の手続きなどで町担当者とは顔なじみで、情報交換や相談しやすい関係が出来ている。町からの情報提供や町主催の研修会や月1回開催されている在宅医療会議の案内もあり、必要時には参加している。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム かつこう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、自動ドアのスイッチを切り開放している。外に出たい方には可能な限り一緒に出掛けるようにしている。	運営推進会議に合わせて身体拘束適正化委員会を開催している。毎月の職員会議でも身体拘束について話し合い、具体的事例に照らして「緊急やむを得ない場合」の3要件の確認を慎重に行っている。また、職員を講師としてスピーチロックとされる言葉の言い替え等について研修を行うなど、拘束のないケアに努めている。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	複数の利用者の対応等でスピーチロックや不適切な言葉を発してしまう場合もみられる場合は、職員間で気付きを得たり、研修も予定している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協事業の一つでもあるため、新規採用時の研修内容となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族の不安や疑問点を伺い、利用料の変更等は、その都度連絡を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方がトイレのウォシュレットを希望され、取り付けの段取りをしている。また、面会時や電話等でご家族のご意見、ご要望を伺っている。	写真を多く取り入れた「かつこうだより」を毎月家族に送付し、日頃の様子を伝えている。家族とは面会時や電話、通院介助のため来所時などに意見や要望を伺うことが出来ている。利用者からの要望でトイレを「ウォシュレット」に変えている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かっこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の申し送り時での職員の意見を聞いている。 衛生委員会のアンケートや人事考課で意見や提案を聞いている。	管理者と職員とは、お互いに意見が言い合える関係性が出来ており、日常の業務の中で気づいたことは直接、或いは申し送り時に話題にして改善に繋げている。「介護見守り機器・バイタルビーツ」が上手く機能していないとの報告があり、原因を調査し電波の問題であることが解明され、夜勤職員の安心と負担軽減につながった例が、最近あった。管理者は、人事考課で個人面談を年1回実施し、その際に職員の意見や提案なども把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回局長が各事業所の提案等のヒアリングを行なっている。衛生委員会の「適切で快適な労働環境のチェック等アンケート」を実施し人事考課も行い、各自が向上心を持って働けるように職場環境等の整備につなげようとしてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協全体による研修の他に、外部研修は職員に確認しながら要望に添えるように考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加や同業者との交流する機会は減っているが、出来るだけ参加し情報を得たいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい場所には不安があるので、知り合いの話や地元の話などをしながら不安なこと等を伺い、少しでも安心していただけるように努めている。職員間では、連絡ノート等で周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と顔を合わせる機会が少ないので面会に来たときなどお話しを伺っている。また電話やメールなどで連絡を取り合っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの段階での説明と変化に応じての報告や相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとりながら季節の行事や若く働いていた時の話など懐かしんだり教えていただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には通院を対応していただいている。また、携帯電話で連絡を取り合っている方もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出掛けた際に馴染みの人に話しかけられたり、野菜の差し入れ等頂くこともある。馴染みの方の様子が気になるときは電話で連絡し面会に来てくれたりもしている。	個々の馴染みの関係を大切に支援することを心がけており、特に外出時には馴染の場所や友人知人と交流出来るような工夫をしている。受診などの外出時に馴染みの場所に立ち寄り、車の窓ごしではあるが友人と話をしたり、お友達と会えるよう病院受診日を合わせたこともある。町の文化産業まつり作品展に事業所の展示コーナーを設け、写真入りで活動の様子を掲示したことにより、地域の知り合いから「元気な様子」が見れてうれしいと双方向での関係継続が持続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員ホールで過ごすことが多く、お互いに声を掛け合える環境にある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了してから積極的な関わりはなく、町内でお会いしたときなどは、懐かしんでいただくこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間でのカンファレンスや申し送り時などに本人の訴えを伝えたり連絡ノートでの情報共有で希望に添えるように努めている。	ほとんどの利用者は言葉で、思いや意思を伝える事が出来る。日々の生活の中で話した事を申し送り時やカンファレンスで伝え、連絡ノートや日誌に書き止め職員間で共有している。トイレからお墓が見えることもあって、「お寺に行って和尚さんの話が聞きたい」とする利用者もあり、すぐに叶えられない場合でも、出来るだけ思いが叶うような方法を検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホーム入居前の暮らしについては、前任の担当者や以前からの経緯を知っている職員も多く、少しでも多くの情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録に日々の様子、変化を記入し職員間で共有している。職員間のやり取りや連絡ノート等でも情報共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの話し合い等で状況に応じて話し合いは出来ている。家族との面会時や電話等で要望等を伺っている	居室担当者は日々の様子をモニタリングし、ケース記録に記入している。月1回の職員会議の中で検討し、毎週水曜日に来所する訪問看護師のアドバイスも盛り込みながら、利用者個々に応じたプランを作成している。見直しは3か月毎に行い、本人にも説明し家族が来所した時に説明してサインをもらっている。	介護計画は本人がより良く暮らすための課題やケアの在り方について、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとだけではなく、要望や変化に応じて臨機応変に見直す事が必要です。介護計画の見直しについて、モニタリング、再アセスメント、計画立案、ケアの実践という一連の流れを利用者一人一人について丁寧に進められることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランで捕らえられない部分のケアはケアカンファレンスや個別記録や連絡ノート等で職員間での情報共有している		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム かつこう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診の時には、ご家族と相談しながら、対応が難しい時には、受診対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集まりに声を掛けていただいたり、ご近所に山菜取りや近隣のバラ園を見学に出かけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連絡を取り合いながら、受診日にそれまでの状態を記録し医師に上申できるようにしている。また、オンライン診療も行なっている	ほとんどの入居者は入居前のかかりつけ医を受診し、付き添いは家族対応を基本としている。難しい場合には職員が行っている。家族には、前回受診後からのバイタルチェック表に、気になることを記載し持参していただいている。状態が安定している利用者1名は、オンライン診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が毎週水曜日に訪問し、状態観察や処置をしてもらっている。体調不良者が出た場合は、電話で相談し対応していただいている。受診を勧められたときは、ご家族に連絡し受診できるように対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	在宅医療連絡会議に出席し、情報の共有に努めている。入院した時には、連絡シート等必要な情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の意向を確認している。施設に医療職がない為、その時の状態によってご家族と相談していく予定である。	重度化した場合の指針は作成済みである。入居時に重度化した場合の意向を確認している。本人のその時の状態と職員体制や医療との連携などを勘案し、対応が可能なところまで支援することを基本としている。要介護3になった時点で、特養なども選択肢としてあることを家族に情報提供している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の体調変化で心配な時は、現病状から考えられる急変時の対応等、訪問看護師しに相談しながら対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の併設のデイサービスとの避難訓練実施の他に夜間を想定した避難訓練を地域を含めて行なう予定にしている	ハザードマップでは土砂災害の危険区域に指定されており、避難訓練は、土砂災害、地震、火災を想定し3日かけた訓練を1回として6月と12月に実施している。また夜間想定訓練は、地区の協力者や消防の協力を得て11月に実施し、参加者からは、『暗闇での避難には、何か目印が必要』とする意見などが出され、今後の取組みに生かすこととしている。備蓄食糧は3日分を確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る前には声掛けをし、ひとりひとりの気持ちを尊重しながらの対応をするようにしている。	居室には声掛けをしてから入室し、トイレや入浴の際には利用者一人一人を尊重し、プライバシーに配慮した言葉遣いや対応を心掛けている。利用者によっては、方言や親しみやすい言葉を使うこともあるが、馴れ合いにならないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、どのようにしたいのかを伺いながら対応し、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方が固定化しているが、自分から散歩に出かけたい思いは大切に、できる限りの対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自由に行なっているが、季節や天候に合わせた衣類調整が必要な方には支援している		

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から食べたいものを伺っている。また、地域の方々から頂いた野菜の調理方法も相談している。準備や片付け等は、出来る方と一緒にやっている	年1回の食事アンケートや日常の会話から好きなもの食べたいものなどを把握している。調理は職員が行っており、地域から差し入れられた食材も活用している。行事食もほとんど手作りし、豪華に彩りよく盛り付けて喜ばれている。利用者は食器拭きやテーブル拭き、台所のモップ掛けなどを一緒に行っている。食前の口腔体操、食後の口腔ケアにも力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取量は記録しながら対応している。咀嚼がうまくできない方には、食事形態を工夫しながら対応している。自宅にいたときから飲用していたヤクルトミルミルを希望する方については、自己購入していただき提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて援助している。年に1回は歯科検診を行い、訪問歯科治療している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で行っている方もいるが、排泄チェック表を見ながらトイレ誘導トイレでの排泄に努めている。歩行不安定な方も多く見守りや介助を行い、夜間、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	日中は全員がトイレを使用しているが、排泄チェック表をもとに見守りや声掛け誘導を行っている。布パンツ使用者は1名、他の利用者はリハビリパンツを使用している。また夜間トイレへの移動が困難な方2名がポータブルトイレを使用している。チェック表をもとに便の出ていない方には、医師処方の下剤を使用し、失敗した時にはさり気ない対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便状況を記録し、便秘になりやすい方には、下剤の調整を行なっている。水分やヨーグルトやヤクルトも接種していただき、軽体操や歩行運動、散歩等で体を動かすようにしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合った支援をしている	その日の活動や、行事によって適宜変更はあるが、入浴したくない方は、無理強いせず別の日に対応している。夜に入浴したい方もおられるが、現在は日中に対応している。	入浴は週2回で午前中に行なっている。体調や気分を考慮し、嫌がる方には無理強いをせず、足浴や別の日に入浴対応を行なっている。皮膚のかゆみを訴える方には、清拭をし軟膏を塗布してかゆみを抑えるよう支援している。入浴剤や季節に合わせたゆず湯にする等、入浴が楽しめるように工夫している。入浴は職員と利用者がコミュニケーションを取れる場となっている。	

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて、休息をし合いながら、気持ちよく過ごしていただくように体調をみながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に頂くお薬情報を回覧し変更があった時には連絡ノートに明記し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調を見ながら掃除や台所の片付け、おやつやお茶配り等行なっている。また、散歩に出掛けたときには、花を摘んで他の利用者さんに喜ばれている方もいる。頂いた、野菜や山菜の仕分け、秋には、干し柿作り等、昔やったことを行ない会話も楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は高校の文化祭見学へ出向き、生徒さんたちが、エスコートもしてくれた。また、町で行なっている産業祭りへの作品展示も行い見学にも出向いている。選挙へ行きたい方は、選挙会場へ行き投票もしている。	お花見やお彼岸、お盆のお墓参りなど、希望を取り入れたドライブを行っている。また、わらび採りやご近所からのお誘いで庭のバラを観に行ったり、施設まわりの散歩や日光浴など、お天気を見ながら外気浴や外出の機会を作り心身のリフレッシュに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もおられるが、お金のしまい忘れなどから物盗られ妄想になる方もおられるため、お金は事務所金庫に預かっていることで安心していただいている方もおられる。使いたいときには何時でも使えることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況を見ながら希望があれば対応している。荷物が届いたときなどは、本人がお礼の気持ちを伝えられるように支援している。携帯電話を所持している方もおり、ご家族等と頻りに連絡を取り合っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースであるホールに、ほとんどの利用者があつまり、賑やかに懐かしの歌などを聞きながら過ごすことが多く、塗り絵やパズル等、退屈しないように過ごしている。陽のあたる玄関やベランダへ行き過ごしている方もおられる。	共用のスペースには、天井の明り取りの窓からホールに光が差し込み、明るい雰囲気になっている。壁面には利用者と職員の手による手作りの貼り絵などの作品が掲示されている。中央に置かれたテーブルに集まって楽しめるほか、炬燵も2カ所に設置され、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ感染対策として、テーブルやコタツを2箇所離して対応していたが、気の合うもの同士、時間や場所を変えて居心地良く過ごせるような対応を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち物の制限はなく、希望されれば自宅にある思い入れのものを持ち込みは自由であることをご家族にも伝えている。	ベッド、椅子、クローゼット、洗面台が備え付けとなっており、暖房は、パネルヒーターで適温に調節されている。家族の写真やカレンダーなど好きなものを持ち込み、居心地の良い居室となっている。部屋の入口には花の名前と氏名が大きく掲示され、利用者が自分の居室を間違わないよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の名前は分かりやすいようにしている。ホールには職員がいるようにしているので分からなくなった時には直ぐに聞ける状況にある。		